

その人らしい暮らしを支える／医療と介護で地域に根差す／医療法人社団 慶勝会の広報誌

赤門だより

vol. 61

特集

医療型短期入所(ショートステイ)導入についてのお知らせ
～住み慣れた地域で、その人らしく、自立した生活を送るために～



医療型短期入所（ショートステイ）導入についてのお知らせ

介護老人保健施設なのはな館みさき

「住み慣れた地域で、その人らしく、自立した生活を送るために」

看護主任 小間久美子



医療技術の進歩により長期入院の後、人工呼吸器や胃瘻等を使用しながら自宅で生活をする方、また進行性の神経疾患等の難病により障害と共に生活を送られている方が近年増えています。医療的ケアが必要な方のご家族が、日々自宅でケアを行う中、レスパイト（介護者の負担軽減・息抜き）先となる医療型短期入所へのニーズは高まっています。必要な時に必要なサービスを利用することで、住み慣れた地域や自宅でその人らしい生活を送っていただけるよう、医療型短期入所を当館でも導入しました。

「的ケアや介護を提供するサービス」です。

●介護老人保健施設において

サービス提供の対象となる方

・障害支援区分6に該当し、気管切開を伴う人工呼吸器による呼吸器管理を行っている方
 ・障害支援区分5に該当し、進行性筋萎縮症に罹患している方、もしくは区分5以上に該当する重症心身障害者（肢体不自由・2級の身体障害手帳及びA判定の療育手帳を所持している方）

●サービス内容

- ・食事、排泄、入浴等の介助
- ・医療的ケア（気管カニューレや胃瘻の処置、痰の吸引等）

●利用目的

- ・介護者が休息・息抜きをしたい時（レスパイト）

●ご利用までの流れ

- ①ご家族・行政機関・相談支援事業所等からの問い合わせ
- ②ご利用者の健康状態やご家族の状況等の確認
- ③施設内の見学、利用方法の詳細を説明し、契約締結
- ④利用開始日決定
- ⑤医療型短期入所利用開始

●当館で医療型短期入所を利用されているA様

A様（42歳）は2000年（当時22歳）に交通外傷により脳挫傷の診断を受け、障害支援区分6の障害認定を受けました。後遺症による嚥下困難があり気管切開・胃瘻造設をされています。病院退院後、障害者施設へ入所され2012年か

ら在宅ケアへ移行し、ご両親により温かいケアを受けていました。朝は家族と一緒にドリップしたコーヒーを胃瘻から注入、お母様がお茶を煎じた時にはお茶を胃瘻から注入し、ご両親と一緒に時間を過ごされていました。

長きにわたり訪問看護、定期通院、介護給付を受け在宅生活を継続していました。

現在、ご両親の健康管理またレスパイトケアを目的とし、当館の医療型短期入所を利用されています。ご両親より利用開始時に在宅での

●医療型短期入所（ショートステイ）とは

医療型短期入所とは「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」に基づき行われている事業です。

障害福祉サービスの「医療型短期入所」にあたり、「1日から数週間、入浴・排泄・食事のほか必要な医療



生活の様子を聞き、お家の環境と近い生活環境をケアの中で取り入れて、A様らしく過ごしていただけるようなケア内容を計画しています。

●A様の当館での1日

- 6時・朝の経管栄養注入
- ・モーニングケア
- 9時・歯科衛生士または歯科衛生士指導のもと看護師や介護士による口腔ケア
- 10時・看護師による健康チェック
- ・気管カニューレケア
- ・レクリエーションに参加
- ・ティータイム(胃瘻からコーヒを注入)
- 12時・入浴ケア
- ・昼の経管栄養注入
- ・排泄ケア
- ・週2回、理学療法士や作業療法士によるリハビリテーション
- 15時・ティータイム(胃瘻から煎茶を注入)
- ・好きなJ-popの音楽鑑賞
- またはTV鑑賞
- 17時・夕の経管栄養注入
- ・イブニングケア、口腔ケア
- ・排泄ケア
- 20時・就寝

1日に10回程度、気管カニューレより吸引施行。2時間おきの体位変換による褥瘡予防ケア実施。

●当館でのサービス内容について

A様は在宅生活をされている際に専門職によるリハビリテーションを受けられるサービスが少なく、整体師の方に個人でマッサージを依頼していたとお話を伺いました。介護老人保健施設は医療機関と在宅の中間施設であり在宅復帰を目標にする場のため、理学療法士、作業療法士等がご利用者の状態に合わせたリハビリテーションを日々行っています。A様に対し現在は関節が硬くならないようマッサージを行い、痰



を出しやすくする体位の工夫など個別の関わりを行っています。またA様は胃瘻からの経管栄養により栄養摂取をしていますが、栄養状態を定期的に観察し管理栄養士が栄養管理を行っています。さらに当館では歯科衛生士が在中しており、口腔内の衛生環境を観察し口腔ケアを実施しています。

介護老人保健施設には、ほかにも医師、看護師、介護福祉士、介護支援専門員等の専門職がおり、多職種連携によりご利用者、またご家族のQOLの向上のためケアに携わっています。

♪A様のお母様よりコメントを寄せていただきました♪

娘が受傷して約20年、無我夢中で介護をしてきました。70歳まで頑張ってきましたが、体力も落ちてしまい、在宅介護に不安がありました。

令和元年、房総半島台風では自宅が数日間停電し、電動ベッド、吸引器が使えなくなりました。エアコンが使えない蒸し暑い自宅で、体温調節が難しい娘の介護はとても苦労しました。今年は新型コロナナ

ウイルスの流行で、このまま娘を自宅で介護できるのか、ますます不安が強くなりました。その矢先に夫が脳梗塞を発症してしまいました。以前より縁があつて相談していたのはな館の皆さんが努力し、医療型短期入所の指定を受けられたと聞いたときは安心しました。現在はなのはな館に短期入所中ですが、家に居るときと同じように胃瘻からコーヒを飲んで、好きな音楽を聴いたり、テレビを見たり、レクリエーションに参加し楽しく過ごしているそうです。本当に感謝しています。

●おわりに

当館では、ご利用者、ご家族に安心してご利用いただけるよう、ケアについて一緒に考えてまいります。新型コロナウイルス感染予防対策のため施設見学は実施しておりませんが、お気軽にお問い合わせください。ご利用をお待ちしています。

なのはな館みさき

TEL 0470-2912700

担当窓口…支援相談員

若林・芝田

赤門整形外科内科 ご利用案内 (2020年12月時点)

- 診療時間
月～金 (午前) 9:00～12:00 (午後) 14:00～18:00
土曜日 (午前) 9:00～12:00 (午後) 14:00～17:00
- リハビリテーション
月～金 8:30～19:00
土曜日 8:30～17:00
- 外来受付時間
月～金 8:30～18:00
土曜日 8:30～17:00
- 休診日
日・祝・祭日、年末年始
(12月30日～1月3日)



最新の外来予定はこちらのQRコードからご確認いただけます。



救急告示診療所・労災指定・生活保護法指定・被爆者一般疾病医療機関・公害・難病指定医・身体障害者福祉法指定医・難病指定医療機関

医療法人社団 慶勝会 事業所一覧

赤門整形外科内科

〒294-0034 千葉県館山市沼 1619
TEL. 0470-22-0008 FAX. 0470-23-2836

介護老人保健施設 なのはな館 みさき

〒294-0303 千葉県館山市浜田 110-1
TEL. 0470-29-2700 FAX. 0470-29-2777

サテライト型小規模介護老人保健施設 なのはな館 なぎさ

〒294-0045 千葉県館山市北条 2832
TEL. 0470-24-2700 FAX. 0470-24-2701

なのはな訪問看護ステーション

〒294-0034 千葉県館山市沼 1604-4
TEL. 0470-24-3113 FAX. 0470-24-3117

ホームヘルプサービスなのはな

〒294-0034 千葉県館山市沼 1604-4
TEL. 0470-24-1226 FAX. 0470-24-3117

赤門ケアプランセンター

〒294-0034 千葉県館山市沼 1637-1
TEL. 0470-22-0023 FAX. 0470-23-6160

館山市地域包括支援センターなのはな

〒294-0034 千葉県館山市沼 1604
TEL. 0470-22-1350 FAX. 0470-22-1351

館山市地域包括支援センターいちご

〒294-0043 千葉県館山市安布里 237-3
TEL. 0470-28-4115 FAX. 0470-28-4116

館山市認知症初期集中支援チームおれんじ

〒294-0034 千葉県館山市沼 1604-4
TEL. 0470-29-5301 FAX. 0470-29-5302

管理部

〒294-0034 千葉県館山市沼 1599 番地 1、1 階
TEL. 0470-25-7300 FAX. 0470-25-7301

赤門保育所

はじめに



私たち医療法人社団 慶勝会は、明治21年(1888年)産婦人科「赤門鈴木医院」の開設を礎として、時代ごとに地域のニーズにお応えすることを使命とし、これまで取り組んでまいりました。これからもこの使命を全うし続けてゆくためにも、絶えず邁進してまいります。

赤門の由来

江戸時代に南部藩(現在の盛岡)の御常宿として通称「南部屋」の名称で呼ばれていた鈴木家は交易の司処として南部藩主より、門柱に朱塗りを、塀の上には高張り(庇)を許されました。この朱塗りの門すなわち「赤門」が名称の由来として今日まで継承されています。



この一枚



ご利用者と館山市の沖ノ島にドライブへ行った際の一枚。毎年夏になると多くの海水浴客で賑わう沖ノ島。寒い時期には人も減り、のんびりとした時間を満喫できます。

医療法人社団 慶勝会広報誌「赤門だより」通巻61号
発行・責任:「赤門だより」編集発行室
千葉県館山市沼1599番地1、1階
TEL.0470-25-7300 FAX.0470-25-7301
ホームページ: <https://www.keishokai.or.jp>
発行日: 令和2年12月15日(年3回)
編集・印刷・写真: 管理部 総合企画